

(寄稿)

機能的口腔ケア

～高齢者口腔ケアの新しいアプローチ

誤嚥性肺炎の予防や呼吸器感染症の予防など口腔ケアの効果に関する研究が進んでいます。さらに、高齢者のQOLにも大きく影響することが明らかになってきており、口腔ケアに取り組む施設も着実に増えつつあります。

ところが、口腔ケアを行おうとすると拒否されたという経験をお持ちの方、もしくはそのような場面を経験の方も多いのではないのでしょうか。実際、食事や会話の機会が減り、口を動かす機会が少なくなると口を触られることに過敏になるようです。

実はこのハードル、意外と化粧療法で越えられることもあるのです。化粧療法により、様々なADL(日常生活動作)の自立度が向上することは、以前のHealthcare note No.14-01で紹介いたしましたが、この化粧療法がリラックスできる雰囲気を作り、口のケアをさせてもらえるようになるのです。

今回のヘルスケアノートは、高齢者の口腔ケアに焦点を当てて、化粧療法がもたらす効果について、株式会社資生堂 事業計画部 新規事業開発室の池山和幸氏に寄稿いただきました。池山和幸氏は、歯科大学や歯科関連学会でも口腔ケアに関する講演の中で化粧療法からのアプローチについて話をされています。

介護保険施設や有料老人ホームで化粧療法を実践する中で、鏡に自身の姿を映した時の高齢者の意識、鏡を見るとき姿勢、スキンケアを行う時の動作などに変化がみられます。いずれもADL改善に密接に関係しており、本稿ではそれぞれの効果「化粧のちから」について研究成果に基づき解説いただきました。

意識の変化から体の変化へと繋ぐ「化粧のちから」を介護の現場に取り入れてみてはいかがでしょうか。

(市川)

2015年10月19日

Healthcare note

(No. 15-13)

寄稿者名：
株式会社資生堂
事業計画部
新規事業開発室
医学博士 介護福祉士
池山 和幸

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

野村證券株式会社
金融公共公益法人部